

令和2年度事業計画書

令和2年3月4日

公益財団法人 名勝依水園・寧楽美術館

令和2年度（令和2年4月1日～令和3年3月31日）事業計画の概要

世界経済の情勢、新型コロナウイルスの影響等から令和2年度の事業環境を見通すことは困難な状況であるが、基本的には昨年度事業をベースに随時見直しながらか令和2年度の事業を遂行する。

依水園の庭園事業では、文化庁他の補助金による整備事業の完了後、自らの費用で維持しながらの公開が3年を経過した。増加を続けていた海外からの入園客は、平成29年度以降、過半に達し、旅行サイトの観光施設の評価では、外国人を含め高い評価を継続している。令和2年度も引き続いて公開を続け、評価を維持していく。この評価を永く維持するため、平成27年度より開始した庭園整備特別準備金の積立を、今年度以降も継続していく。また今年度から庭園、建家の保全管理の維持向上のため、年間を通じてすべての火曜日を休園とするとともに、12月末から1月中旬および9月下旬に庭園整備のための休園期間を設ける。維持の費用の確保のため4月から入園料を改定する。今年度は、文化庁他の補助金による蔵の外壁修復を行う。

美術館事業では、前期展として4月1日(水)から8月10日(月)まで、「財団設立80周年記念展前期- 設立者中村準策と寧楽美術館-」を開催する。私設美術館のめずらしかった昭和15(1940)年に大和郡山出身の中村準策(号:克齋)により設立された弊館が本年度に80年を迎える。美術品の蒐集から財団の設立までを示す展示を、あらたに見つかった資料を交え公開する。

後期展としては、8月26日より12月27日まで「財団設立80周年記念展後期 -二代中村準一・三代準佑と寧楽美術館-」を開催する。(9月23日(火)～29日(火)庭園整備期間で閉園・閉館) 準策の子で中国古印コレクションを築いた準一(号:石廩)、孫で戦後依水園を公開と共に美術館展覧を開始し、美術館を開設した準佑(号:佑齋)にスポットを当てる。

毎年実施している、田能村竹田筆、重要文化財『亦復一楽帖』の一図ごとの特別陳列においては全会期を通し、2週間ごとに全13図をすべて公開する。

美術館は、令和3年1月～3月迄、庭園整備の休館及びその他イベント等開催の為閉館とし、その間学芸部は美術品の資料整理及び、次回展示の準備と研究期間とする。

美術品の修復に関して、昨年度より積立を開始した、「美術館開館55周年名品展準備預金」による美術館名品の修復の積立を今年度も継続する。また出光文化福祉財団の美術品修復事業助成金の支給が認められたので山本梅逸「花鳥図屏風」を修復する。

その他事業では、平成20年5月より毎年開催している、「依水園文化講演会」を、今年

度も2回程度開催の予定である。うち1回は、特別陳列で『亦復一楽帖』全13図を公開することにちなみ、文人になりたいとの思いから竹田を研究されている中谷美風氏（四代目美風流家元）に下記の通り講演を依頼する

日時：令和2年5月16日(土)13:00～15:00（10分休憩あり）

場所：名勝依水園 藤の間 参加費：2,000円（入園料込）

演題：「『亦復一楽帖』に魅せられて ～文人、田能村竹田の世界～」

講師：中谷美風氏（煎茶美風流家元）

平成27年度より開始した、6月1日の開園記念日を割引料金とする企画を今年度も継続する。またこの日の恒例となった当財団敷地内茶室の三秀亭で、煎茶道を入園客に体験してもらうイベントを今年度も開催する。これは三秀亭が本来煎茶道の茶室であったことに基づくものである。

平成25年より例年2月に奈良市主催で開催されている珠光茶会開催期間中、園内の茶室を公開する「依水園お茶室見学会」を開催している。通常公開していない建物内部を見学できる機会として好評を得ているので、これを今年度も開催する。

平成31年2月より開催している、当財団への寄贈品の曲水の宴の平飾りのひな人形等を展示する「依水園のひなまつり」を、今年度も引き続き開催する。

平成29年度より毎年三月に奈良新聞社が主催する、「奈良工芸の粋」展の会場として当園の美術館、母屋、茶室等を貸出し、奈良漆器、赤膚焼、一刀彫等の奈良の工芸品の展示、販売、茶席開設に協力している。今年度も奈良工芸の発展を支援するため、これに協力する。

庭師の人材育成の為に開講している「庭園大研究会」を今年度も継続して開催する。

今後も公益財団法人として公開収入の増額を目指すとともに、魅力ある観光スポットとして前向きに企画をたてて大勢の入園・入館者に喜んでいただけるように努めたい。

以上